



発行元：NPO法人あさお市民活動サポートセンター

目次

あさお落書き消し隊	1
新ゆり走遊会	2
新百合ヶ丘鉄道模型クラブ	2
ゆる体操サークル	3
新百合囲碁キッズ	3
突撃レポート 新ゆりアートパークス管理運営協議会	4
取材申込受け付けます	4

明るくきれいな街を目指し奮闘中

あさお落書き消し隊

落書きを見かけたらぜひご一報を

10年前の新百合バスターミナル周辺には落書きとハトの糞が氾濫していた。この惨状を目の当たりにした新百合ヶ丘駅周辺景観形成協議会と麻生まちづくり市民の会は2005年「あさお落書き消し隊」（以下隊という）を結成。隊は先行する下北沢の落書き防止対策実行委員会の指導を受け、商店街など地域を巻き込んで落書き消しを展開した。その甲斐あって駅周辺の落書きはあらかたなくなった。

そこで、隊はこの活動を区内全域に広めたいと考え、2007年、経験豊かな隊員を講師として地域に派遣するシステム「出前落書き消し」をスタートさせた。

過日、出前落書き消しに参加した。新百合ヶ丘駅から12分、住宅街のど真ん中、白い塀に黒ペンキでかかれた仏頂面「ビフォー」が本日の教材。参加したご近所のお母さんは「子どもがこの絵に怯えるので、まわり道をしている」と迷惑している様子。作業は北島、柳下、吉田の3隊員の指導のもと、マスクとゴム手袋をつけ、スプレーによる溶剤の噴き付けからはじまる。20秒もするとどす黒い液体が滴り落ちる。ウエス（ぼろ切れ）で素早く拭い取る。この間合いの取り方が素人とベテランの差のようだ。ペンキの調合

は出来栄えを決定づける。ポイントは下地の塗料、乾燥した後の色調変化の見極め、それは勘と経験からの贈り物と吉田隊員は語る。塗装はムラが出ないように全面に軽く刷毛を運ぶ。80分ほどで作業は終了した。

依頼主は見事に復元した白塀「アフター」に大満足の様子、幾度となくスタッフに頭を下げていた。スタッフは衣類に染み付いたペンキを熱草に、満たされた気分で現場を後にした。また、地域の参加者からはこれを契機に落書き消しを町会活動の一つとして定着させたいとの頼もしい声も聞こえてきた。

なお、白井隊長は「隊は準備万端整えて出前要請を待っています。落書きを見かけたらぜひご一報をください」と意欲満々である。

区民記者 竹市八郎



▲【ビフォー】 塀に描かれた落書き

▼落書き消し作業中



▲【アフター】 壁は真っ白に

あさお落書き消し隊

隊長：白井 勇

連絡先：吉田謙司 ☎090-4923-0002

設立：2005年8月

会員：12名（男性9名・女性3名）

会費：なし

費用：個人負担なし

（区の地域課題対応事業）

活動日：不定期

活動場所：新百合ヶ丘駅周辺を中心に
区内全域

ひと汗かいてリフレッシュ



緑が多いコースはさわやかだ

新ゆり走遊会

代 表：清水正道

連絡先：林 隆俊 ☎044-272-1178

設 立：1987年3月

会 員：120名（常時参加は30～40名）

（男性：70名、女性：50名）

年代：小学生から80歳代

会 費：なし（入会金：なし）

活動日：毎週日曜 8時から例会
（雨天中止）

活動場所：白山東緑地（白山神社前）に
集合
新ゆりグリーンタウン内を
周回

日曜朝8時、ストレッチにはげむ掛け声が公園にひびく。十分に準備運動をしたのを見極め「さあ、走りましょう」とリーダー。その呼びかけで歩道に出る。ある人はゆっくりと歩き出し、ある人はおしゃべりをしながら走り出し、徐々にペースあげてゆく。

近所の仲間数人が誘いあって活動をはじめて早や26年。ウォーキングレベルの初心者から、42.195kmのフルマラソンや100kmなどのウルトラマラソンの常連まで、常時30人から40人が、白山のグリーンタウンの中を3周（4km）まわって、いい汗を流している。会員は近隣の住民が主体だが、小田急多摩線や横浜あざみ野から参加する人もいる。専門家が、ウォーキングの初歩から、マラソンのタイムを上げる高度な走り方まで教えてくれるので、走りはじめた初心者にも、サブフォー（フルマラソンを

4時間以内に走ること）を目指す人にもお勧めである。

会員は、グリーンタウンの住民が参加する、構内駅伝大会の開催を支援したり、集合場所の公園・道路の清掃をしたり、地元への貢献もしている。

日ごろの運動不足を解消したいと思っている方は、この際、気楽にのぞいてみてほしい。会では老若男女を問わず、子ども連れの家族の参加者も増えることを期待している。

区民記者 中島久幸



会の有志が手入れをしている花壇は季節の花がいっぱい

新百合ヶ丘鉄道模型クラブ

世界鉄道の旅 ジオラマに入り込んで体感

麻生市民館で開かれた「あさおサークル祭」（6/1～6/2）で、「スイス山岳鉄道の旅」と題して、スイス氷河特急を走らせた。

新百合ヶ丘鉄道模型クラブは、日本型Nゲージ鉄道模型を走らせるクラブだが、兄弟クラブの「モデルアイゼンバーンクラブ」（1992設立 ヨーロッパ型鉄道模型クラブ）と合同展示。白いひげをたくわえ帽子を被った、両クラブ事務局長の二上孝秋さんが見学者を迎える。「車両を走らせて楽しい、思わずその中に入りた

くなる風景づくりを目指しています」と、自慢のジオラマの説明に熱が入る。

展示ジオラマレイアウトは縮尺1/87のHOmゲージ。フルセットの中央部だけの展示だったが、それでも大きさは3.6m×1.2mになる。7枚分割のジオラマを2時間かけて組み立てた。ほかにも、日本型鉄道模型のNゲージ（縮尺1/150）を展示した。

大勢の見学者で賑わったが、長い時間、じっと見入っている人がいる。走る列車が楽しいのだろうか、ジオラマに入り込んで夢の旅をしているのだろうか。「ジオラマ上を走る鉄道模型は生き生きとしていて、実物が走っているようにリアルで、自分がジオラマに入り込んだように錯覚します。まさに、そこを旅しているようです」と二上さん。鉄道の話になると、熱くなり話は尽きない。



鉄橋を渡る氷河特急（マッターホルン・ゴッタルド鉄道）。踏切では警報機が鳴る。

新百合ヶ丘鉄道模型クラブ

代 表：小松一石

連絡者：事務局長 二上孝秋

☎&FAX. 044-953-2293

e-mail fwhw1294@mb.infoweb.ne.jp

設 立：2005年4月

会 員：男性7名

（社会人5名 高校生1名 小学生1名）

会 費：入会金／年会費 なし

ただし、レイアウト製作、維持管理費は別途徴収

活動日：定例会・運転会 第4土曜
（10～18時）

活動場所：金程会館（麻生区金程）

備 考：会員募集中

兄弟クラブ合同で定例会を開く



人の約1/87の人形は情景のストーリーに合わせて、未塗装模型に色付け、手足を整形する

区民記者 石崎純也

*ジオラマは風景をさします。そのジオラマ上にレールが設置されているものを、ジオラマレイアウトといいます。

ゆる体操サークル

笑い声あふれる 楽ちんお気軽体操



武藤まゆ子先生

「ほぐれるよう～に～、ゆるむように～」。武藤まゆ子先生のゆったりとした声が、フロアに拡がり、「ゆる体操」が始まる。ストレスや疲労で固まった身体を、揺らして伸ばして、ゆるめることにより、コリや歪みが取れ、リンパの流れも良くなる。ダイエットや若返りの効果が期待される。「(腰)もぞもぞ」「(首)くねくね～」「(脛)ぶうらぶうら」と、つぶやきながら行う。



胸フワ背フワ体操
「大きく雲を抱えて ドゥ～ワァ～」

「駄々っ子のように手足バタバタ」「納豆ネバネバ歩き」と、先生に声を掛けられると、具体的なイメージがわき、動作やポーズが取りやすい。

武藤さんが、ゆる体操を教えられる場所と参加者を求めて「やまゆり」を訪れた。対応したやまゆり運営スタッフの藤田さんは、ハードな動きがなく、ゆるやかな体操という点に注目した。広くたくさんの方々が参加できれば、シニアの仲間づくりが更に発展するのではないかと考えたことが、サークル発足のきっかけとなった。

「会話をしながらの体操は、心身ともにリラックスできる」「ちょうどいい心拍数が保たれて心地良い」という参加者の感想。シニアや運動習慣のなかった人も、気軽にはじめて無理なく続けられそう。

区民記者 落合文子



リンパマッサージ
「ほぐれるよう～に～ ゆるむように～」

ゆる体操サークル

代表： 藤田康郎

連絡者： 武藤まゆ子（指導者）

☎044-951-4970

設立： 2013年7月

会員： 28名（男性22名・女性6名）

会費： 1000円/月

活動日： 第1・3月曜 第2・4木曜
17時30分～18時30分

活動場所： 麻生市民交流館やまゆり

新百合囲碁キッズ

棋力を磨く子どもたち、母も参加の囲碁教室

新百合の好立地、麻生市民交流館やまゆりの一室では朝早くから碁石の音がひびく。碁盤を見つめる初心者やお試し入学の子ども達。その横で中川先生と対局する有段の子どもは時計を置いて公式試合を模しての一局。ももこ先生は級位の子どもの一手ごとの確に助言する。腕前（棋力）を挙げステップアップ



腕前を上げステップアップ！

する子ども達は「棋力が上がった！」と喜ぶのも束の間、すぐに次の対局に移る。アッという間の3時間だ。

新百合囲碁キッズは、「子どもの成長に役立つ囲碁の教育効果に目を向けた」との地域の保護者の思いを集めこの4月にはじまった。先生には囲碁界のトップクラスの学生を招いた。子ども達の礼儀作法の習得を基本に、数多く対局することで切磋琢磨し、感性や集中力等を磨く教室を目指している。一方、囲碁の普及を強化する環境づくりは子ども達にとどまらない。

今年10月から女性を対象に5回連続で、囲碁入門講座『ゼロから始める、女を磨く囲碁講座』を地域コミュニティ支援事業として開催する。家庭の中で世代を超えたコミュニケーションツールになる囲碁の世界。問い合わせるなら「今でしょ！」

区民記者 池山幹夫



碁を打ち合い感性を磨く

新百合囲碁キッズ

代表： たかしまみさき 高嶋 美佐姫

連絡先： ☎090-9819-3407

設立： 2013年1月

会員： 20名（保護者）参加生徒は小学1年～中学3年（男子18名、女子2名）

入会金： 1000円

会費： 6000円/月

活動日： 毎週土曜 9時30分～12時30分

活動場所： 麻生市民交流館やまゆり

備考： 会員募集中 入会随時
高校生も歓迎

突撃レポート

ペンとカメラを携えて
記者が行く行く
今日も行く



日本一の芝生公園にしたい

一新ゆりアートパークスを支える人

昭和音楽大学の南側、三角スペース、彫刻オブジェのある公園が「新ゆりアートパークス」川崎市の公園だ。毎週土曜日6年間毎回6~7名で手入れをして2年前からやっと人の入れる公園になった。

芝生は張ってから雑草を地道に取っていくことが大切。バスからも眺められ人目につく公園を雑草だらけにしてはいけないと有志が集まり芝生の手入れがはじまった。



昨年6月、緑の愛護活動が認められ国土交通大臣賞を受賞。

「通りがかりの人からの、『きれいですねえ。』という目と声の支援が嬉しい。」と代表の森さん。

メンバーのひとり小学6年生の原田しあんさんは近所に住む祖父と参加する。「家はマンション。ここに来ると、きのこやバッタの赤ちゃんを見つけたりする。季節ごとに芝生の色が変わるのも面白い。」と言う。6月から近所の太陽の子保育園の園児も毎回土曜日お手伝いに加わった。

この「新ゆりアートパークス」は、お茶会や野外コンサート、町内会の懇親会などにも利用できる。ごみを残さない、元の状態に戻すなど



園児たちと ボランティアのみなさん

ルールを守ればどの団体・グループも利用できる。申込書は隣接する麻生市民交流館やまゆりに置いてある。

きれいな芝生の上で寝っ転がるのも楽しそう。ボランティア参加も大歓迎。

区民記者 丸山としこ

新ゆりアートパークス管理運営協議会

代表： 森 一郎

連絡先： ☎044-955-8778

設立： 2007年8月

会員： 19名(男性10名・女性9名)

会費： なし

活動日： 毎週土曜

9時30分~11時30分

Information 取材申込受け付けます!

●取材申込受け付けます!

「活動を紹介して欲しい」「イベントを取材して」そんな声に記者が応えます。お申込みいただいた内容については編集会議で可否を検討したうえ、改めてご連絡させていただきます。

●応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤者が活動に参加している。

●申し込み方法

1. 団体名 2. 代表者名 3. 連絡先(電話・FAX・メール)
4. 活動内容(イベントの場合は開催日時・料金・内容)を、「あさお区民記者」宛てにFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX.044-951-6467

Mail info@asao-ku.net

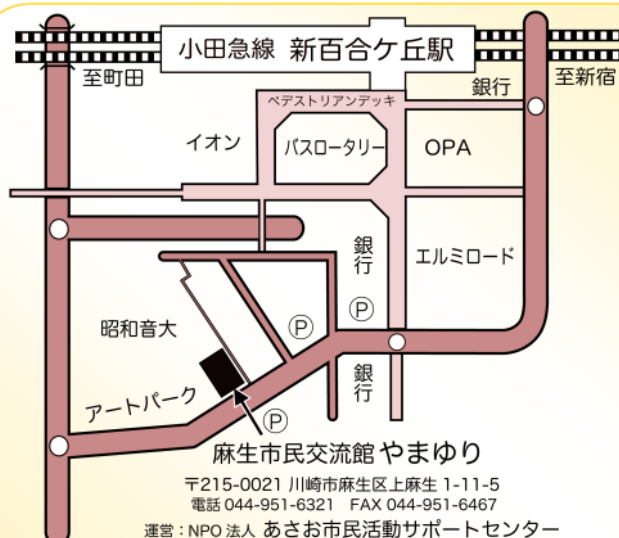
※但し、選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。



あさお区民記者

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。

<http://www.asao-ku.net>



URL <http://web-asao.jp/yamayuri/>
Access 小田急線「新百合ヶ丘駅」南口から徒歩4分